

「命の道」

伊豆縦貫自動車道だより

伊豆縦貫道 と 下田のまちづくり 「トークテラス」開催状況 (H25.1.30~H25.2.2)

市では国・県の協力のもと、平成 25 年 1 月 30 日から平成 25 年 2 月 2 日の 4 日間、市内 2 箇所(1/30・31 東本郷「下田とうきゅう」: 2/1・2 立野「A コープ稲生沢店」)において、伊豆縦貫道と下田のまちづくりに関する「期待と不安の声」を市民の皆様からうかがう取組み「トークテラス」を開催しました。(4 日間の総来場者数 約 590 人)

H25.1.30 東本郷 (下田とうきゅう) 1 日目



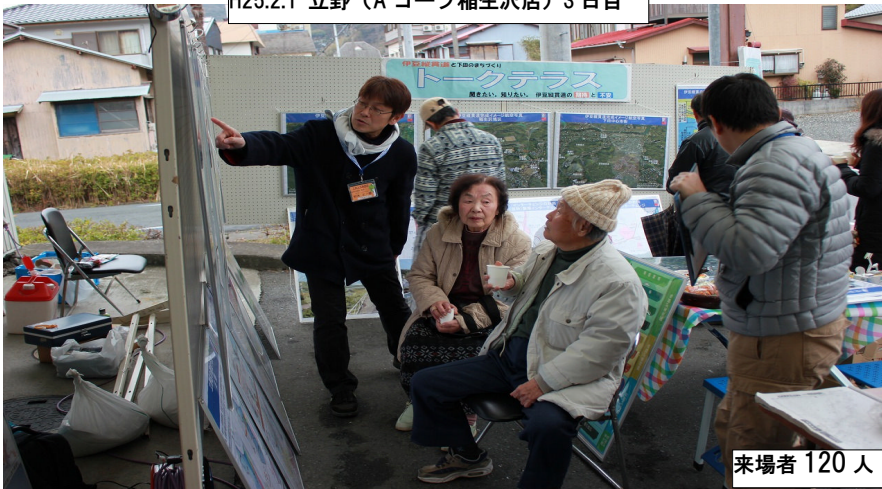
来場者 160 人

H25.1.31 東本郷 (下田とうきゅう) 2 日目



来場者 250 人

H25.2.1 立野 (A コープ稲生沢店) 3 日目



来場者 120 人

H25.2.2 立野 (A コープ稲生沢店) 4 日目



来場者 60 人

◎東本郷 (下田とうきゅう開催) で聴こえた「期待・不安の声」◎

- 原案説明会に行ったが、一方的説明で良くわからなかった。トークテラスで説明してもらって良くわかった。あらためて道路は必要だと思う。シミュレーションの画がとてもわかりやすく、実感が湧きました。
- 将来の子ども達には絶対に必要な道路。移転する人達は大変だが、ぜひ早期整備してもらいたい。
- 下田の発展のために縦貫道は必要。人が来るのは結構だが、観光客を呼び込む努力をしなければ。この道路をつくって、もっと人を呼び込んで、下田を元気にしないといけないと思う。
- 順天堂病院に毎週行っているのので、早く繋がってほしい。第三次医療機関が遠いので不安。
- 天城区間について難所である。事業効果を上げるには、天城区間を早くおこなうこと。優先順位は 1 番である。老いている両親の面倒を見に月 2 回位東京より来るが、天城区間が時間がかかる。早期に事業化を。




※裏面に続く

◎立野（A コープ稲生沢店開催）で聴こえた「期待・不安の声」◎

- フォトモンタージュを見るまでもなく、ここ(文教地区)を通るだけで反対。高架ができれば見た目(景観)が悪くなる。大沢の方へ変えてくれ。
- 決めるなら早く決めて。本当は移転したくないけど決めるなら早く。今からルートを変えられるのはしゃくだ。
- ルートについて色々な意見があるだろう。それは当たり前だ。でもそれでグラグラ揺れるようでは芯の無い話だ。
- 自分が住んでいる家の側を通るが、騒音対策はしっかりとやってもらいたい。高架からの落下物の対策も約束してほしい。言葉だけでは不安。
- 補償(移転)は近いところが希望。長い間住んで愛着がある。土地を買収するなら全部買ってほしい。
- 高架下利用をどのようにさせてくれるのか？高架下の利用として、乳幼児が水遊びする場所を考えたらどうか？下田からも人が集まってくるかもしれない。
- 縦貫道だけの計画でまちづくりについて市民と対話する場がないのはなぜか？近々、下田市のまちづくりの基本方針を作り変えるようだが、その中で縦貫道も話合えば良いのではないのか？



ルート（案）が決まる（都市計画決定）までに市民の皆さまが、ご意見を述べる機会は、
 ①「都市計画原案説明会」・②「都市計画公聴会」での意見公述・③「都市計画案の公告縦覧」時の意見書提出です。

 <p>「都市計画公聴会」での意見公述</p>	<p>公聴会では、公の場で意見を述べることができます。公聴会開催のお知らせは公告（広く皆様にお知らせすること）を行います。公聴会で意見を述べようとする場合は、開催期日の1週間前までに、意見の要旨及びその理由、住所、氏名及び職業を記載した書面を県に提出することになります。</p>
<p>「都市計画案の公告縦覧」時の意見書提出</p>	<p>縦覧している都市計画の案について、県に意見書を提出することができます。意見書の提出は、公告から1ヶ月+2週間の期間となります。</p>

※トークテラスでうかがった「不安の声」の中には、ルートが家屋に直接影響を及ぼす可能性がある方々から「家屋移転や土地の買収」に関する「補償の不安の声」が数多く見受けられました。安心していただく為にご説明をしたい所ですが、道路工事着手はもとより、詳細な「土地・家屋の補償」のお話は、次のステップに進まなければ説明ができません。（詳細な用地測量や物件調査が必要となるからです。）

こうした問題を解決するうえでも、今後も皆様とお話し合いを続け、対策できるものは考え対策し、うかがいました沢山の「声」を今後の取組みやまちづくり（都市マスタープランの改訂）に反映させ、1日も早い道路開通にむけて次のステップに進んでいくことが大切です。



伊豆縦貫道の計画をご理解いただくため、これからも皆様と対話を続けてまいります。